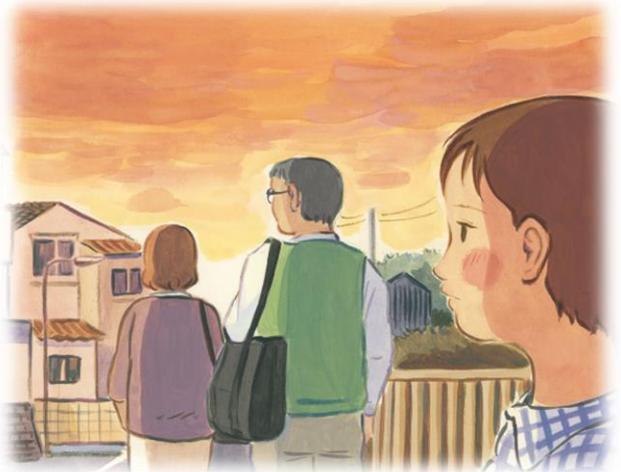


3年道徳通信 第25号

第25回『命の選択』

肺にがんが見つかった祖父。祖父は病名を悟り、延命措置をしないことが望みだと、「僕」と父母に伝えます。しかし、祖父の苦しむ様子に、父母は葛藤しつつも人工呼吸器をつける選択をしました。祖父の意思を尊重できなかったことに、家族は悩めます。

今回は、「尊厳死」という、将来的に現実として生じる「家族の終末期」を「命の選択」として問いかける難しい内容でした。



みんなの意見

もし余命があと少しだったらどう生きていますか。

- 好きなことをしていきたい。
- やってみたかったことをする。
- 貯金を全部使う。
- 身内とか知り合いに会っておきたい。
- いつも通りに過ごす。

父母はどうして祖父の意思を尊重できなかったのだろう。

- よくなるかもしれないと思ったから。
- まだ祖父と一緒にいたかった。
- 家族の命を失うことが怖かったから。
- 治ると強く思っていたから。



父の「どうすればよかったのだろう…」という声に何と答えますか。

- 「毎日会いに行こう。」
- 「おとうさんが一生懸命考えた結果だからおじいちゃんも絶対受け止めてくれると思う。」
- 「祖父の意見を尊重できなかったのはわかる。でも最期は祖父の気持ちを聞いてあげたら。」

「命」について考えたこと。今日の感想

- いつ何が起るかわからないので、1日1日を大切に生きようと思った。
- きょうの授業が道徳で一番おもしろかった。
- 人の最期には自分だけじゃなくて、周りの人が選択することもあるのだとわかった。
- 最期の時を迎えるのは怖いけど、私は最期まで全力で生きたい。
- 大切な命だからそれぞれに考え方はあるし、今は賛成でも考え方は変わるかもしれない。
- 尊厳死には賛成。その亡くなった人の分まで、自分が生きる！
- 絶対に死ぬ運命だから仕方ないけど、そういうのは見たくないと思った。
- 以前いとこが亡くなってとても悲しかったけど、人生何が起きるかわからないから、今を大切にしようと思いました



命について、考えよう。

